

クラシック音楽のコンサートを創ろう！ ～クラシック音楽業界の抱える課題にチャレンジ！～

1 目的・概要



私たちのプロジェクトでは、プロのクラシック音楽業界への提言を最終目標とし、業界が直面する課題について議論するのみならず、実際にコンサートを企画・運営し、また実際にお話を聞く座談会の場を設け、より実践的な課題解決策を模索した。

科目担当者や業界の第一線で活躍するゲストから学ぶとともに、「クラシック音楽を取り囲む環境」を知る機会を得た。

本プロジェクトの最終成果として作成する「提言書」には、春に実施したコンサートと秋学期に実施した座談会企画の経緯と実施報告、及び成果をふまえての提言を記している。学生であるからこそ、プロのクラシック音楽業界にとってひとつの新しい視点を与えられるような提言ができるように努めた。

Annual Schedule

春学期

- | | | |
|-------|----|----------------------------|
| 2019年 | 4月 | クラスの役割分担、クラシック音楽業界の課題認識 |
| | 5月 | コンサート企画プレゼンテーション |
| | 6月 | コンサート準備 |
| | 7月 | コンサート実施、ふりかえり、ポスター作成、成果報告会 |



秋学期

- | | | |
|-------|-----|-----------------------------|
| | 10月 | 春学期のブラッシュアップ |
| | 11月 | インタビュー、ゲストスピーカーによる講義、座談会の準備 |
| | 12月 | 座談会実施、ふりかえり、ポスター作成 |
| 2020年 | 1月 | 成果報告会、提言書発行 |

2 成果達成度

春学期コンサート：「Classical Music×Pure Land クラシック音楽×極楽浄土」

コンサート概要

(1) インバウンドを対象にしたお寺で行うコンサート

近年増加傾向にある訪日外国人（インバウンド）に夜の時間帯の観光の需要のひとつとして、また、日本らしさを感じられるお寺を訪れるきっかけとして、クラシックコンサートを企画した。会場となったお寺を極楽浄土に見立て、クラシック音楽とともに来場者に世界観を感じていただけるようなライトアップによる演出も行った。



(2) 日本人作曲家

演奏曲目の中に日本人作曲家の曲を取り入れ、日本のクラシック音楽について知ってもらえるようにした。また、コンサートのアナウンス、プログラムおよびアンケートの日英両方の表記、パレオを用意するといった配慮を行った。

コンサートの目標

日本（京都）に観光に来たインバウンドを新たなクラシックコンサートの集客ターゲットにできるか検証すること。

コンサートの成果

インバウンドの集客は0名であった。来場者21名のうち、ほとんどは会場となった龍岸寺の檀家さんであった。しかし、普段クラシックを聴かない檀家さんにも楽しんでいただけたコンサートとなり、意外な成果も得られた。

秋学期座談会「地域に根差したクラシック音楽を目指して～お寺で音楽を聞くこと～」

座談会概要

音楽関係者とお寺関係者の意見交換

春学期の活動から視点を変更し、地域を中心としたクラシック音楽の展開について考えていくことになった。そこで、春学期に会場として取り上げたお寺で行うクラシックコンサートをさらに活かしていくため、企画案として仏教の話をモチーフにした絵本の読み聞かせコンサートを提示し、音楽関係者とお寺関係者を招待し議論した。

座談会の目標

春学期のコンサートをブラッシュアップした企画案を通して、お寺でコンサートしていく可能性について考えること。

座談会の成果

音楽業界と仏教界に集客の課題という観点で共通していたため、議論が活発に展開された。そのなかで、企画案をさらに深めていく意見をいただいた。



3 プロジェクトを通じて

春学期は訪日外国人（インバウンド）を対象にしたクラシックコンサートの展開について、どのようにすれば集客が得られるのか苦戦した。

後に調べてみると、お寺でクラシックコンサートをする取り組みは各地で行われていた。その点に関してコンサート実施までに調べられず、インバウンドの実態・行動についても不十分な調査になってしまっていたことに反省した。

秋学期の活動の主軸として取り組んできた座談会だが、準備期間がかなり短い中で開催に至った。もともと音楽業界と仏教界との間で活発な議論に至っていなかった。しかし、今回の座談会を通して互いの共通点を発見でき、活発な議論ができた。座談会後も話が盛り上がり、このような場を設けられたことに達成感を覚えた。

本プロジェクトでは、今まで音楽業界が拒んできたことに対する新たなアプローチとして機能しているといえる。クラシック音楽をより身近に感じられ、聞いてもらうことができるのか、その第一歩になった活動ではなかったかと思われる。



編集後記

春学期は誰を対象にしたコンサートを企画するのか何度も話し合いを重ねました。そのなかでインバウンドに着目することに決まり、学生ならではの柔軟な発想を尊重してコンサートを行いました。しかし、メンバーそれぞれの役割の把握ができていなかったなど、課題残る結果となりました。秋学期は大幅な履修生の減少により、授業展開においてかなり戸惑いました。しかし、大学生活4年間の時間のなかで、失敗を恐れず全力で取り組んだこの1年間は、今後社会にでた時の糧になるのではないかと思います。授業運営について相談・対応して下さった事務局の皆様はじめ、このプロジェクト科目に関わって下さったすべての方々に感謝します。ご尽力くださりありがとうございました。

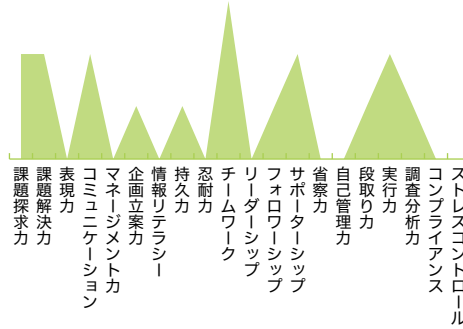
プロジェクトメンバー

御前 友実(文2) 米田 桃香(社会2)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

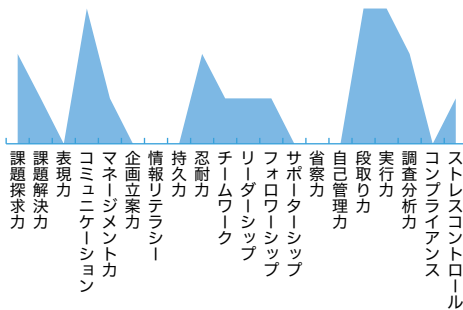
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

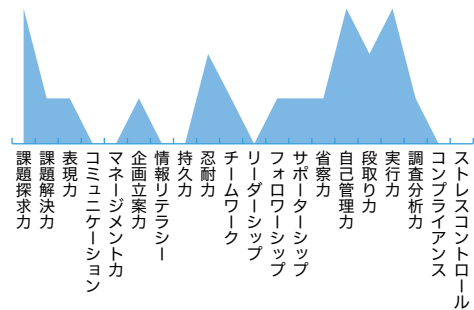


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

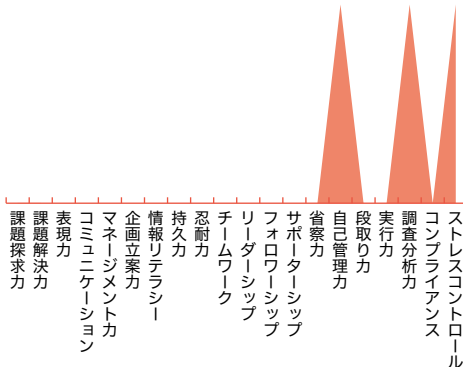


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

